

平成 18 年度 栃木の子どもの学力向上を図る学習指導プラン

確かな学力を育むために

【小学校・国語科】



平成 19 年 1 月

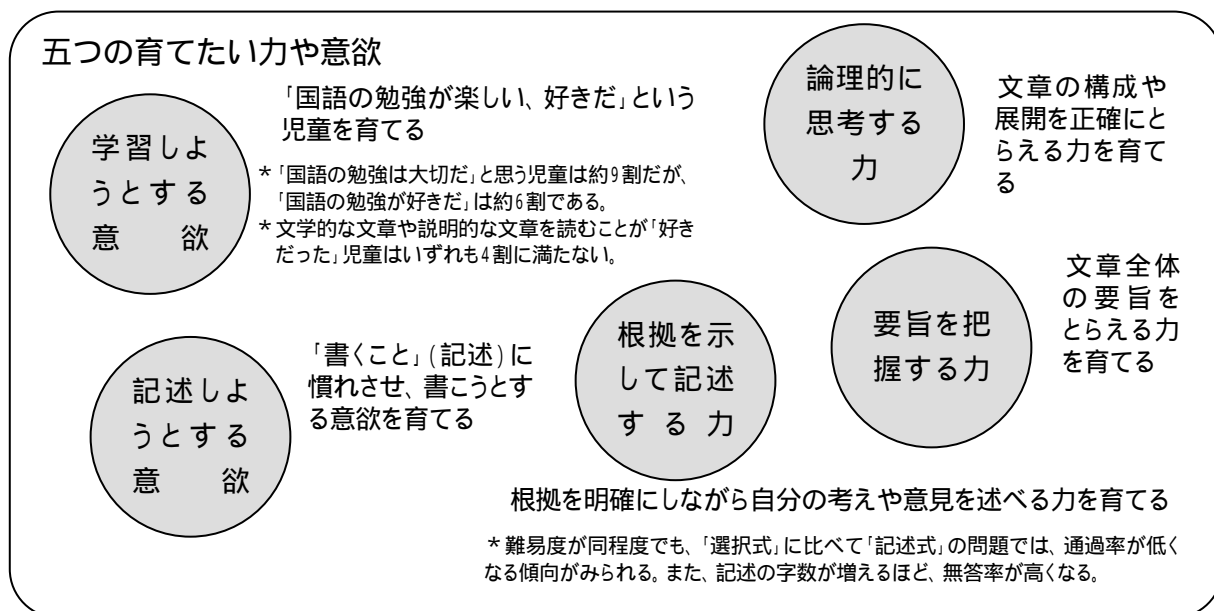
栃木県総合教育センター

本県では、児童生徒の学習状況を把握するため、昭和 47 年度から「学力水準調査」を、平成 7 年度からは「学習状況調査」を実施してきました。また、全国の状況と比較するため、平成 14 年度、平成 16 年度には「教育課程実施状況調査」を実施しました。

これらの調査のうち、主に「学習状況調査」と「教育課程実施状況調査」の結果を再度分析し、学習指導の充実・改善を図るためのポイントを教科ごとにまとめました。

各学校でご活用いただき、「確かな学力」を育むための学習指導の充実・改善にお役立てください。

この資料に示す学習指導のプランは、これまでの調査結果を踏まえ、次に示す五つの育てたい力や意欲に関し、今後の指導に役立てていただくために作成したものです。平成17年度に3回シリーズで発行した「栃木の子どもの学力向上を図る授業改善プラン」とともに、ご活用ください。



- 1 毎時の「ねらい」と「方法」と「評価」のつながりを明確にしましょう P 2
- 2 評価規準に「記述」を取り入れましょう P 4
- 3 学習した言葉を引用して書かせましょう P 5
- 4 「初発の感想」を次の学習活動に生かしましょう P 7
- 5 「動作化」を生かして文章表現に着目させましょう P 10
- 6 学習の手引や「問い」や「例示」を吟味しましょう P 12
- 7 教科書に「思考の足跡」を残しましょう P 14
- 8 段落や文の順序を並べ換えて、文章の論理展開を考えましょう P 16
- 9 出題の形式を様々に工夫しましょう P 19

1 毎時の「ねらい」と「方法」と「評価」のつながりを明確にしましょう

次に示す「ありの行列」の学習指導計画（光村図書 3 年上）は、光村図書のホームページから引用したものです。8 時間計画の中に、三つの指導目標、五つの学習活動、五つの評価規準が示されています。では、それらの学習目標、学習活動、評価規準は、それぞれどう対応するのでしょうか。

月	単元名 教材名	時数	主な学習事項 (学習指導要領との関連)	活動 時程	学 習 活 動	おおむね満足できる状況
五	一 まてまりに ありの行列 をつけて読せう	8 (読 8)	「ありの行列」を読んで、「問い」「答え」などを見つけながら、段落ごとにどんなことが書いてあるかを理解する。(読イ) 「問い」「答え」「答えを見つける過程」をとらえるために、表現の細かい部分に注意して読んだり、全体の構成を考えるために大きくまとめて読んだりする。(読オ) 文章全体について、段落の役割を理解する。(言オ(イ))	1 2 3 6 7 8	1 全文を通読して、初めて知ったことや驚いたこと、疑問に思ったことを話し合う。友達の発表も参考にしながら、読みのめあてをもつ。 2 「ありは、ものがよく見えません。それなのに、なぜ、ありの行列ができるのでしょうか。」という表現が「問い」であることを理解し、「答え」を見つけようとして、文章の全体を読む。 ・「このように」に着目して「答え」の部分を見つける。また、「問い」「答え」がそれぞれ一つの段落に書かれていることを知る。 3 「答え」がどのようにして出されたかを知るために「中」の部分丁寧に読む。 ・初めて知ったことや大事なこと、内容のつながりが分かる接続語や指示語の役割、文末表現などを、段落ごとにノートにまとめたり、見つけたことを発表したりする。 4 「ありの行列がなぜできるのか」について、文章に沿って説明する。 5 単元全体を振り返り、学習したことを確かめたり、感想を発表したりする。	関 本文を進んで読み、ウイルソンが研究し、解明した内容が書かれている文章であることを理解しようとしている。 「なぜ」「～のです」など、問いかけや答えを表す言葉・表現について、二年生の既習事項を確かめておくことよい。 読 「問い」「答え」の内容と書かれている段落を理解している。 読 「問い」と「答え」に挟まれて、解明の部分があり、全体が「初め・中・終わり」で構成されていることを理解している。 読 どんな実験・観察・研究を、どんな順序でしたかをノートにまとめている。 言 「段落」を指摘したり数を確かめたりしている。

(mitsumura-tosho.co.jp/skyokasho/frame.html)

三つの指導目標

五つの学習活動

五つの評価規準

それぞれどう対応するのかな？



「番号で示す」ことに対応関係を明確にする

次ページの表は、その対応関係を明確にした例です。ここでは、学習目標（主な学習事項）、学習活動、評価規準のそれぞれとどう対応するのか、番号で分かりやすく示されています。

このように、対応関係を見直すことで、毎時の「ねらい」と「方法」と「評価」の関連がはっきりしてきます。本時は、どんなねらいで、何をどのように学習させるのか、どう評価するのかが明確になれば、授業への自信もわいてきます。

月	単元名 教材名	時数	主な学習事項 (学習指導要領との関連)	活動 時程	学 習 活 動	おおむね満足できる状況
五月	二 まてまりに ありの行列 つづけて読む	8 (読8)	<p>「ありの行列」を読んで、「問い」「答え」などを見つけながら、段落ごとにどんなことが書いてあるかを理解する。(読イ)</p> <p>「問い」「答え」「答えを見つける過程」をとらえるために、表現の細かい部分に注意して読んだり、全体の構成を考えるために大きくまとめて読んだりする。(読オ)</p> <p>文章全体について、段落の役割を理解する。(言オ(イ))</p>	1	1 全文を通読して、初めて知ったことや驚いたこと、疑問に思ったことを話し合う。友達の発表も参考にしながら、読みのめあてをもつ。	関 本文を進んで読み、ウイルソンが研究し、解明した内容が書かれている文章であることを理解し、友人に説明したりノートに書いたりしようとしている。[観察・発言・ノート]
				2	2 「ありは、ものがよく見えません。それなのに、なぜ、ありの行列ができるのでしょうか。」という表現が「問い」であることを理解し、「答え」を見つけようとして、文章の全体を読む。 ・「このように」に着目して「答え」の部分を見つける。また、「問い」「答え」がそれぞれ一つの段落に書かれていることを知る。	読イ 「問い」「答え」の書かれている段落を区別して教科書の段落に囲みを入れたり、それぞれの段落の内容をノートにまとめたりしている。[教科書・ノート]
				3 6	3 「答え」がどのようにして出されたかを知るために「中」の部分丁寧に読む。 ・初めて知ったことや大事なこと、内容のつながりが分かる接続語や指示語の役割、文末表現などを、段落ごとにノートにまとめたり、見つけたことを発表したりする。	読イオ 「問い」と「答え」に挟まれて、解明の部分があり、全体が「初め・中・終わり」で構成されていることを、板書をもとにノートにまとめている。[ノート]
				7	4 「ありの行列がなぜできるのか」について、文章に沿って説明する。	読オ どんな実験・観察・研究を、どんな順序でしたかをノートにまとめたり、見つけたことを発表したりしている。[ノート・発表]
				8	5 単元全体を振り返り、学習したことを確かめたり、感想を発表したりする。	言オ(イ) 「段落」を指摘したり数を確かめたりしている。[観察・発表]
				7	4 「ありの行列がなぜできるのか」について、文章に沿って説明する。	読イオ ノートにまとめたものを参考に、友人に説明している。[ノート・観察]
				8	5 単元全体を振り返り、学習したことを確かめたり、感想を発表したりする。	読イオ ノートなどを参考に感想を発表したり改めてノートにまとめたりしている。[ノート・発言]

学習目標に 、 、 と番号を付け、それらに対応する評価規準にも 、 、 と番号を付けています。

学習目標の と は、何度も繰り返して評価の対象になっていますが、目標のは、評価の機会が一回だけの設定です。したがって、学習目標の と は、この学習計画8時間を通して指導し評価していくこととなりますので、特定の時間での評価結果だけを重視することのないようにすることが大切です。

2 評価規準に「記述」を取り入れましょう

評価規準は、学習目標に到達した児童がどのような「状況」にあるかを判断するために設定します。その「状況」をみるために、国語科の評価規準の文末は、「～しようとしている」（関心・意欲・態度）、「～している」（話す・聞く、書く、読む、言語）とするのが一般的です。

評価規準を具体化するには

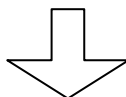
毎時レベルの評価規準（具体の評価規準）は、教師が児童のどのような姿から判断するかを、できるだけ具体的に示す必要があります。しかし、中には、「進んで考えようとしている」「～を理解している」など、抽象的なものもあるようです。このような場合は、どのように具体化するとよいのでしょうか。

その工夫の一つは、「記述による評価」を取り入れることです。次に、その工夫を図った例を示します。

「具体の評価規準」の見直しの例（「ありの行列」学習活動2の評価規準より）

評価規準例（本資料2ページ参照）

読 「問い」「答え」の内容と書かれている段落を理解している。



上の傍線部を見直して「具体化」を図った例（本資料P3参照）

読イ 「問い」「答え」の書かれている段落を区別して教科書の段落に囲みを入れたり、それぞれの段落の内容をノートにまとめたりしている。[教科書・ノート]

ワンステップアップ

P3の評価規準をみると、評価方法として、「観察・発言」のほかに「ノート」を取り入れ、その明確化と複合化を図っています。また、「教科書の段落に囲みを入れたり」「ノートにまとめたり」というように、児童の具体的な記述内容から判断できるようにすることで、授業中の「観察」「発言」などだけでは評価しきれない部分を補うように工夫がされています。

記述を取り入れることによって、児童の理解をより確かなものにすることができます。また、あとで振り返って、学習の経過を確かめさせることもできます。教師にとっては、単元の中盤や終盤に児童のノートをまとめて読むことで、児童全体の理解状況を把握することもできます。

3 学習した言葉を引用して書かせましょう

次に示すのは、低学年の指導において、教師が感想の例示をしながら、学習した言葉（文章表現）を引用して感想を書かせるように、児童にノートへの記述を促した例です。学習した言葉を引用して書くことは、記述力を高めるうえで大変効果的です。

「はるの ゆきだるま」（東京書籍1年下）説明・発問例 - 1 -

今日の学習で心に残った言葉を使って、感想を書いてみましょう。その前に、先生が書いたものを紹介します（模造紙を黒板に貼る）。線を引いてあるところ（下記の「教師の例示」の傍線部）が、先生の心に残った言葉なのです。では読んでみます。

教師の例示



先生は、「どうぶつたちは、だまったまま いつまでも その 花の ゆきだるまを 見つめていました。」というところが ここに のこりました。

先生は、はじめて よんだときに、とても ゆめのある おはなしだと おもいました。でも、さいごの ところが、ちょっと かなしかったのです。ゆきだるまさんが とけてしまったからです。でも、そのおかげで、たくさんの 白い花が さきました。どうぶつたちも きっと また ふゆになれば ゆきだるまさんに あえると おもって、いつまでも その 花の ゆきだるまを 見つめて いたのではないのでしょうか。

説明・発問 - 2 -



先生の感想と、「わたしも同じです」というところがありますか。それはどんなことですか。

先生の感想にはなかったけれど、「わたしはこんな感想をもちました」ということがありますか。それはどんなことですか（児童の感想は、教科書のどのあたりのことに関係しているか、ページをめくって確かめる）。

いろんな感想が出てきましたね。では、みなさんの心に残った言葉にも線を引きましょう。

線が引けたら、ノートを出してください。みなさんの心に残った言葉を使って、感想を書いてみましょう。

児童の感想例



わたしも せんせいと おなじところが ここにのこりました。はじめは、はるのゆきだるまは、とてもかわいそうだとおもいました。どうぶつたちと、なにもはなせなかったからです。口がないから、はなせなかったのだとおもいました。どうぶつたちは、だまって、いつまでも見ていました。ぼくは、なんだか、そこでかなしくなってしまいました。でも、せんせいとおなじで、またふゆに、あえるといいな、とおもいました。

このように、本時で学習した言葉を引用しながら学習活動を振り返ることは、記述力を高めるとともに、語彙を豊かにしたり、文脈に即して考える力を身に付けたりするうえで効果的です。

学習活動の成果を「書くこと」によって確かめる

次に示すのは、光村図書のホームページから引用した「いろいろな くちばし」(光村図書 1 年上)の学習活動例(8 時間扱い)です。

「いろいろな くちばし」(光村図書 1 年上)の学習活動例

- 1 教材の写真を見たり文章を読んだりする。(5 時間)
 - ・鳥について知っていることを発表する。
 - ・全文をみんなで読み、3種の鳥のくちばしの話であることを確かめる。
 - ・写真と文を照応させながら、「問い」と「答え」を確かめて読む。
- 2 P44 と P51 の写真を見て、鳥の名前を確かめ、鳥のくちばしの特徴と食べ物に関係に気づく。(2 時間)
 - ・くちばしの形とえさのつながりを考えて話し合う。
 - ・自分の好きな鳥を選んで教科書の続きを作る。
- 3 図書館で生き物の本や図鑑を見つけて読む。(1 時間)

Q この学習活動ができたかどうかを、どう確かめればいいでしょうか。

A それは、2の学習活動の状況を見ることによって確かめられます。

「次の学習活動」が「前の学習活動」を評価する

学習活動 2 において、自分の好きな鳥を選んで「教科書の続き」を話したり、ノートに書いたりすることができれば、学習活動 1 の学習状況は「おおむね満足」以上の状況にあると判断します。つまり、ここでは、「読むこと」の学習成果を、「書くこと」によって確かめることになります。次の例のように、次時の学習への期待を書かせることも効果的です。

次時の学習への期待を書いた例～「スーホの白い馬」(光村図書 2 年下)～

次の時間の楽しみは、馬頭琴を先生がもってきてくれることです。わたしはきょう、「馬頭琴」ということばをべんきょうしました。「馬頭琴」は、馬の頭の形をしているがっきのことです。きょうかしょには、「いったい、どうして、こういうがっきができたのでしょうか。」と書いてあります。

わたしは、どんな音が出るのかなということが知りたくなりました。

こんど、音楽のときに、先生がもってきてくれるので、たのしみです。それを聞くと、スーホのきもちがもっとわかるようになるかもしれないとおもいます。

「書く」ことによって学習活動をしめくくる

単元や教材の学習指導の終末に、「学習記録を書こう」などの学習活動を設定すると、学習したことの自覚化が促され、「身に付けた力」を一層実効あるものに高めることができます。そのとき、今までにノートに書いてきたことや、教科書に書き込んできたことなどを読み返すことで、実感を伴った「振り返り」とすることが大切です。また、そうなるように、それまでの学習活動において「書く」ことを取り入れるようにしたいものです。

発問例

学習目標をノートで確かめ、その目標達成をめざして、自分たちがどのような学習活動を行ったのかを書いてみよう。

ノートを振り返り、友人の考えや文章の具体的な表現を引用してまとめてみよう。



音読したことを振り返り、自分として努力したことや工夫したことを書いてみよう。

一時間目には、「作品のよいところを自分なりにみつけて、みんなに、『なるほど。』と思ってもらえるように話す。」という目標を立てました。

ぼくたちのはんでは、3の場面を中心にしてみつけました。ノートには、そのときのメモがたくさん書いてあります。その中で、山田さんがみつけた「くちびるを二、三回静かにぬらしました。」とか「くちびるをとんがらせました。」いう大造じいさんの様子がいいと思います。どうにかして残雪をやっつけようとしている気持ちが伝わってくるようです。

それからぼくは、「冷え冷えするじゅう身をじゅっとにぎりしめました。」という表現も好きです。大造じいさんが、息をこらすようにして、じーっと待っている様子がそうぞうされたからです。

話し合いでは、みんながみつけた表現がたくさん出てきて、大造じいさんや残雪の様子や気持ちがいろいろ想像できました。発表会するときももりあがりましたが、ぼくは、はんの中で、みんながみつけたことをノートに書きながら、たしかめ読みをしたことが一番心に残っています。

ぼくがみつけた表現を、川野さんが、「それとってもいいね。」と言ってくれ、はんの発表のときに使うことになりました。残雪がハヤブサから仲間を守るとき、「ぱっと、白い羽毛があかつきの空に光って散りました。」というところです。残雪はどうなるんだろう、とぼくは読んでいてきんちょうしました。

教科書のさし絵にもあるように、どう考えても、ハヤブサのつめに勝てるわけがありません。ぼくは、仲間を守ろうとしている、ひっしな残雪をおうえんしました。この場面は、音読でも、なんども読みました。何回読んでも、このところでは、ぼくは、きんちょうします。残雪になったつもりで、おうえんするように読みました。

学習記録を書く力を育てる手だてとして、自己評価シートに記述欄を設け、自己評価したことの「理由」を簡単に述べさせることも効果的です。低学年の場合は、記述例を教師が示すなどして、無理なく書けるように段取りをする必要があります。

4 「初発の感想」を次の学習に生かしましょう

教科書会社のホームページや指導書には、「初発の感想」を述べる学習活動例が多く示されています。何のために児童に感想を聞くのでしょうか。また、聞いた感想は、どのように生かすとよいのでしょうか。次に、「動物の体」（東京書籍5年上）の場合を例にして、その工夫を図った例を紹介します。

「動物の体」（東京書籍5年上・8時間扱い）の学習活動例

*ねらい：文章の仕組みを考えて、書かれていることを読み取る。

- 1 「動物の体」を通読して書かれている内容の大体をとらえ、初発の感想を伝え合う。（1時間）
- 2 文章の仕組みに注意しながら書かれている内容を読み取り、要旨をとらえて筆者の考えについて自分の意見をもつ。（5時間扱い）
- 3 動物や自然環境について書かれた他の本や文章を読む。（2時間扱い）

「次の学習」への期待感を高めるために「問い返す」ことが大切です

この学習活動例では、初発の感想を伝え合うことで、「文章の仕組みを考えて、書かれていることを読み取る」というねらいや、内容を読み取り、「要旨をとらえて筆者の考えについて自分の意見をもつ」ことにつながるようにすることが望まれます。

そのためには、児童に感想を述べさせるだけではなく、「次の学習活動」につながるように「問い返す」ことが大切です。次にその例を紹介します。

「動物の体」（東京書籍5年上）で「初発の感想」を伝え合う例

A ぼくは、ラクダのことにきょうみをもちました。今までは、ラクダのこぶにえいようがあるから長い旅ができるだと思っていたのですが、いろんな体の仕組みがあるのだと思いました。

T ほんと、すごい仕組みのようですね。Aさんが言ったこと、それは、何ページあたりに書いてあったの？

A えっと、40ページと41ページです。あ、42ページもです。

T ずいぶん長いですね。

B ラクダの話が一番長いんじゃないかな。

T そうですか。みんなで、動物のお話ごとに、区切りを考えてごらん下さい。
段落に番号を付けてね。

B やっぱラクダの話が一番長くて、第 段落から第 段落まで、7段落ありました。

__線部のように問い返すことで、感想の根拠となる文章表現に着目させようとしています。

お話がいくつから構成されているか、考えさせようとしています。

T そのとおり。では、一番短かったのは？

C ソウとキリンかな。

D キツネじゃないの？いや、シカかな？

T さて、どうかな？そのことは、次の時間から、段落ごとの内容を表にしてまとめながら詳しく読み取りますから、そのときのお楽しみにしましょうね。ところで、このお話をいくつかのまとまりに分けるとすると、いくつぐらいになると思う？自由に言ってごらん下さい。（児童の声「10ぐらい。」「五つぐらい。」など。）実は、「てびき」に答えが書いてあるのよね。見てみようか。そう、全部で六つなんですね。どんな区切り方をすればいいのかな。楽しみですね。では、ほかに、感想を聞かせてください。

F わたしは、ソウは暑い所にすんでいるのに体が大きいということにきょうみをもちました。今は絶めつしてしまっただけけれど、マンモスは寒い地方にいたから、その生き残りが今のゾウなのかなとも思いました。

T おもしろいことに気づいたね。実は、マンモスの本が図書室に何冊かあるんだけれど、Fさん知っているかな？この学習の終わりごろにね、いろんな動物の本を紹介し合うようにしたいのですが、それまでにFさんはマンモスの本を探して、できれば読んでおいてもらえるといいですね。

問い返しをきっかけに、児童に考えさせながら、次時以降の学習活動2の内容を予告したり、学習への期待感を高めたりしています。

線部のように問うことで、自発的な学習を促そうとしています。

学習活動3に入るまでに、児童が自主的に動物の本を探して読むように示唆しています。

ワンステップアップ

このように、「初発の感想」は、児童がこれからの学習がどのようなものかを理解するとともに、それに期待をもって臨めるようにするために述べさせたいものです。

友達の感想を聞きながら、「ほんとうにそうだな。」と改めて思ったところの線に色を付けさせたり、「こんなことを私は思った」などの書き込みをさせたりしていくことも、考える力や書く力を育てるうえで効果的です。

あらすじを述べる

「初発の感想」ではなく、初読の段階に、「あらすじを述べる」学習活動が設定されている計画も少なくありません。

「あらすじを述べる」ことは、文章の内容のあらましをとらえ、人物の関係や話の展開を大づかみでとらえる学習訓練として有効です。

また、あらすじを述べさせる発問としては、「いつ、だれが、どこで、どうしたお話ですか。」という内容のあらましを問うほかに、次のような例もあります。

一番心を強くひかれたのはどの場面ですか。その場面の様子と、心をひかれた理由をノートに書いてみましょう。

はじめて読む人に分かるように、あらすじを紹介する本の帯を作りましょう。

印象に残った人物の言葉を取り上げ、その人物の紹介文を書きましょう。 など

5 「動作化」を生かして文章表現に着目させましょう

「動作化」を通して考えたことや、これから取り組もうと考えていることを、ノートなどに書くことによって、「登場人物の気持ち」などを想像する読みを深めることができます。

教師からの問いかけや例示が大切です

次に示すのは、「スイミー」（光村図書2年上）における教師の例示と児童がノートに記述した例です。クイズ形式での例示と説明をしたうえで、「やってみたいもの」を児童に選ばせ、次に「どんなふうに取り組みたいか」をノートに書かせます。

「スイミー」（光村図書2年上）における教師の例示・説明と児童のノート例

例示

「スイミーは、だんだん、元気をとりもどした」のは、どんなものを見たからですか。全部で六つ、あげてください。（略）

そのとおり。それらが「素晴らしいもの」で、「おもしろいもの」だったから、スイミーが元気をとりもどしたのですね。では、その六つのうち、どれか一つを選んで、その様子を体や顔の表情で表してみましょう。まず、先生が、あるものについてやってみますから、当ててください。教科書は閉じてください。ではやります。わかったところで、だまってノートに答えを書いてください。

*用意するもの（黒系のネクタイ、割り箸の先などに付けた小さな魚のペープサート）

説明例



小さな魚を、ネクタイの細いほうから上にたどるようにして動かしながら、次のように言う。「これは何だろう。ぼくと同じ色をしているよ。ずいぶん長いな。大きいな。あれ、動いてる、くねくねと。ゆっくり、ゆったり。ずうっと続く、くねくね道。あれ？目玉だ。お魚さんだったのかな？じゃ、さっきのはじめのほうは、しっぽだったのかな。」

児童のノートから



ぼくは、うなぎをやってみたいです。先生が、「くねくねと」「ゆっくり」「ゆったり」と言ったところが、とてもたのしかったです。ぼくがやるときは、ネクタイじゃなくて、ながいゴムみたいなものでやりたいです。

わたしは、もも色のやしの木みたいないそぎんちゃくをやりたいです。先生がクイズで、もも色をしたいろんなものを出したり、風にゆれるようすを、たのしそうに見せたりしてくれたので、わたしも、やってみたくくなりました。わたしがやるときは、魚のクマノミもとうじょうさせたいです。

感想の書き方を例示することも大切です

ただ書かせるのではなく、どのように書けばいいのか、イメージがわくように、書き方を例示することも大切です。次に示すのは、「すいせんのラッパ」（東京書籍3年上）の例示と児童の感想の例です。

「すいせんのラッパ」（東京書籍3年上）

例示

今日は、先生が「すいせん」の気持ちになって音読をしたり、「すいせん」の様子を体で表してみましたね。先生ががんばったことや工夫したことをノートに書くとしたら、こんな感じになるかな、ということを大きな紙（模造紙）に書いてきました。読んでみます。

「先生は、まず8ページの「大きく息をすって」というところと「すき通った音が、池をわたり、地面をゆさぶり、おかを上って、むこうの空にきえます」というところを、どんな感じで読めばいいのか、お家で何でもれんしゅうしてきました。「すき通った音」をどう表すか、とてもむずかしかったのです。でも、みなさんが、「目をまんまるにして、うんとせのびをして」というところをよく表してくれたので、とてもうれしかったです。」

みなさんも、今日、自分で音読したり体で表したりしてみたことを思い出して、がんばったことや工夫したことを、ノートに書いてみましょう。

児童のノートから



ぼくたちのほんでは、かえるとありになって、こうたいでれんしゅうしました。

ぼくは、かえるのやくがすきです。とくに、みどり色のリボンのようなかえるが、きどった声で言うところがすきです。「はあい」という言いかたを、ちょっときどったかんじで言ってみました。

それと、くるんとちゅうがえりするところは、きょうしつの前の方で、ころがりながらやりました。ありやくの山田さんと川しまさんが、手をたたいてくれたので、とてもうれしかったです。こんどは、ありのやくにちょうせんしてみたいです。

ワンステップアップ

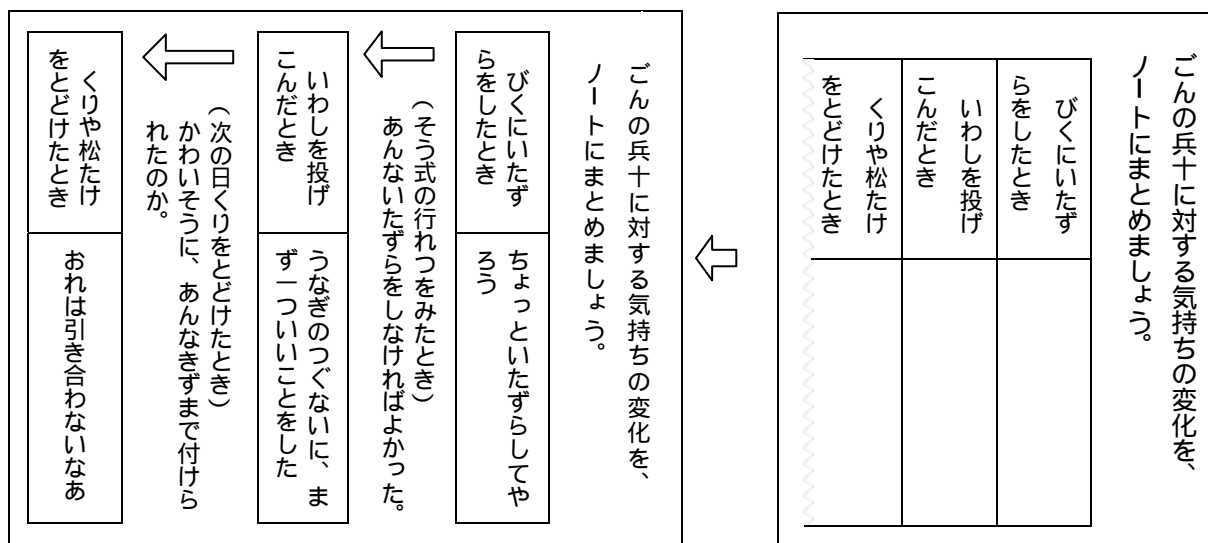
このように、例示を参考にさせることで、児童は、自分が行った「動作化」をどのように振り返ればいいのかについてのイメージを具体的に得ることができます。その結果、自分が分担した役割に関する文章表現の理解を、文脈に即して考えることとなります。また、教師は、児童の記述内容を読むことにより、文章内容をどの程度理解したかについて把握し、その後の指導の参考にすることもできます。

6 学習の手引きの「問い」や「例示」を吟味しましょう

「問い」を吟味してワークシートを作る

ワークシートや教科書の「学習の手引き」の「問い」や記述欄については、学習目標の達成を図るうえで適量かどうか、内容的にどうかなどを吟味することが大切です。次に示すのは、教科書の「学習の手引き」の「問い」に工夫を加えることにより、一層の学習効果を図ったワークシートの例です。

「ごんぎつね」（東京書籍4年下）の学習の手引きの補足例



ワークシート化した例

教科書の「学習の手引き」

右の例では、「ごんの兵十に対する気持ち」が、なぜ から へ、 から へと変わったのか、その理由までは分かりません。そこで、「気持ちの変化」が分かるように作りかえたものが左の例です。

「例示」をもとにみんなで考える

一方、光村図書の「ごんぎつね」では、「一年間積み重ねてきた学習を生かして、自分の力で『ごんぎつね』に取り組みましょう。」という学習課題のもとに、児童主体で取り組むように、「学習の進め方」と、それまでに学習した内容が例示されています。

その例示を生かすには、教科書の上巻、下巻のページをめくり、「どの教材で」「どんな学習をしたのかを、みんなで振り返る時間を設けると効果的です。その際、一年間の自分のノートも振り返らせ、考えたことを楽しく発表し合う場面を設けると一層効果的でしょう。

なお、下に示すように、教科書の例示以外にも、「ごんぎつね」の学習に役立つような学習事項はたくさんありますので、「例示」を工夫する参考として紹介します。

「ごんぎつね」(光村図書4年下)の学習の手引きの補足例

「白いぼうし」(教科書上 P52～63)

- ・ 行動や話し方から人物の人がらを考える。
- ・ においや色などを表したり想像させたりする言葉から、作品の印象を語り合う。
- ・ こそあど言葉が指し示す意味を考え、場面の様子を想像する。

(例) 1や2の場面で、人物の様子や情景が効果的に表現されている箇所を探して印象を語り合おう。例えば、「いつもは、赤いさつまいもみたいな元気のいい顔が、今日はなんだかしておれていました。」などはどうか。

「一つの花」(教科書下 P4～15)

- ・ どんな時代の物語か言葉や表現をもとに考える。
- ・ 書かれていることを手がかりにして、書かれていない人物の気持ちを想像する。
- ・ 場面ごとのつながりについて、登場人物の行動に注意して読む。
- ・ 題名の意味を考える。

(例) 5の場面で、ごんが「お念仏がすむまで、いどのそばにしゃがんで」いたり、「二人の話の聞こえを聞いて」「兵十のかげぼうしをふみふみ行」ったりしたのはなぜか、想像して話し合おう。

(例) 「おれにはお礼を言わないで、神様にお礼を言うんじゃない、おれは引き合わないなあ。」と言ったのに、「その明るく日も、ごんは、くりを持って、兵十のうちへ出かけ」たのはなぜか、想像して書こう。

「アップとルーズで伝える」(教科書下 P18～23)

- ・ どの写真がどの段落のことを書いているか考える。
- ・ アップとルーズがそれぞれ伝えられること、伝えられないことをまとめる。

(例) 「ごんぎつね」では、アップで伝えると効果的な場面はどこかな。ルーズで伝えると効果的な場面はどこかな。それぞれ絵にあらわして解説文を書こう。

「生活を見つめて」(教科書下 P32～39)

- ・ 疑問に思うことをアンケートで友達に聞く。
- ・ アンケートの取り方を工夫する。
- ・ 分かったことをレポートに書き、感想や意見を伝え合う。

(例) ごんの行動について、「疑問に思うこと」をアンケートで友人に聞いてみよう。

- ・ うなぎを草の葉の上ののせておいたのはどうしてかな。
- ・ ごんは、くりをどうやって拾ったのかな。いがかがいたいんじゃないかな。

ワンステップアップ

教科書やノートを振り返りながら、右の各欄のように、教師が積極的に「問い」を例示することが必要です。とりわけ、人物の行動や情景の描写などに着目させ、この作品の優れた表現を味わう学習活動を児童に示すことが望まれます。

7 教科書に「思考の足跡」を残しましょう

次に示すのは、「やまなし」（光村図書6年下）において、「いいなと思う表現」「ふしぎだなと思う言葉」などに線を引き、どんなことを思ったのかを書き込んだ教材文の例です。

「やまなし」（光村図書6年下）の書き込み例

「どこから底を写しているのかな どんな機械なんだらうつ
小さな谷川の底を写した、二枚の青い幻灯です。
— 五月

「ひきのかにの子どもらが、青白い水の底で話していました。
「クランポンは笑ったよ。」 どんな生き物かな
「クランポンはかぶかぶ笑ったよ。」 おもしろい言葉だな
「クランポンはかぶかぶ笑ったよ。」 かたい感じってどういうことかな
上の方や横の方は、青く暗く綱のように見えます。そのなめらかな天井を、つぶつぶ暗いあわが流れていきます。
(略) どんな感じか見てみたい
かにの子どもらも、ぼつぼつと、続けてあわをはきました。それは、ゆれながら水銀のように光って、ななめに上の方へ上がっていきました。
つとつ銀の色の腹をひるがえして、一ぴきの魚が頭の上を過ぎていきました。
(略)
「お魚は、なぜああ行ったり来たりするの。」
弟のかにが、まぶしそくに目を動かしながらたずねました。
「何か悪いことをしているんだよ。取っているんだよ。」 クランポンを取っているのかな
「取っているの。」
「うん。」
つとつして今度は落ち着いているの？ひょっとして…
そのお魚が、また上からもどつてきました。今度はゆっくり落ち着いて、ひれも尾も動かさず、ただ水にだけ流されながら、お口を輪のように円くしてやって来ました。そのかげは、黒く静かに底の光のあみの上をすべりました。こわそう
「お魚は……。」
そのときです。にわか天井に白いあわが立って、青光りのまるできらきらする鉄砲だまのようなものが、いきなり飛びこんできました。

かこの兄弟の会話は、どれが兄でどれが弟なのか

表現に即して読む

このように、教材文に線を引いたり、書き込みをしたりすることは、表現に即した読みをするうえで大切です。また、自分の考えを深めることに加え、互いの読みを伝え合ううえでも効果的です。

また、授業を展開するに当たっては、児童の書き込みをいったん伏せて、線だけを引いた教材文を印刷して配ります。それをもとに、児童が、いろいろな表現に目を向けつつ、楽しく想像し、自分なりの考えをもつように展開することが望めます。

授業展開例

今日は、5月の場面の表現を味わい、豊かに想像することがねらいです。ところで、「表現を味わう」「豊かに想像する」って言っても、どうすればいいんでしょうね。昨日は、「心に残った表現」に線を引きながら読みましたね。そのとき、みなさんが線を引いたところをまとめて印刷したものを配ります（前ページのプリント例）。

この中に、先生が線を引いたところが入っているのですよ。聞いてみたいですか？そうして、ゆうべ、先生はお家で、いっしょうけんめいに、その表現を思い出しながら、いろいろなことを考え、思いをめぐらしながら、味わったり、想像したりしてきたんですよ。

では、まず、その中から、一つか二つを紹介しましょうね。（任意の表現について、楽しく、想像をめぐらして語る。）次に、みなさんに聞いてみましょうね。まず、マーカーで、自分が引いたところに色を付けてみましょうね。

Aさんは、「かぶかぶ」に線を引いていましたね。先生もそこが好きなのでAさんに聞いてみたいのです。どんな感じがしましたか。（何人かを指名したり、挙手発言などにより、表現を仲立ちにして、感想のやりとりをする。自己表現が苦手な子の場合は、教師が言葉を補って引き出したり級友に助けてもらったりする。）

ワンステップアップ

この授業展開例は、配布用のプリントの中に、教師の読みを語るしかけを加えているところに工夫があります。教師の読みを例示しながら、児童の読みも引き出していくことで、「表現を味わい、豊かに想像する」というねらいの達成につながっています。児童も、自分が前時に線を引いているので、期待感や安心感をもって答えることができます。

線を引く

- ・要約するために、キーワードや中心文を探して線を引く。
- ・登場人物の行動（＝線）と心情（－線）を区別して線を引く。

囲みを付ける

- ・場面や意味段落などに分けるために、段落のまとまりごとに囲みを付ける。

色分けする

- ・登場人物の様子や気持ちを考えるために、行動や心情などを色で区別する。
- ・事実と意見を色で区別する。

「はじめはえんぴつで線を引こう。」
「次は色をえらんでうすく書こう。」
「はっきり分かったことは、色を目立つように、こくしよう。」

書き込みをする

- ・いわゆる「初発の感想」を書く手だてとして、読みながら思ったことを自由に書き込みする。（友人の発表を聞きながら、さらに書き加える。）
- ・で線を引いた、登場人物の行動や心情を表す表現に関して、欄外に小さな吹き出しを作り、気持ちなどを想像して書く。
- ・国語辞典で調べた「言葉の意味」を欄外にメモ書きする。

8 段落や文の順序を並べ換えて、文章の論理展開を考えましょう

挿絵の順序を考える

「時間的な順序、事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと」に関する学習課題は、従来、「場面ごとに見出しを考える」「あらすじをまとめる」といったものが多かったのですが、「ニャーゴ」（東京書籍・2年上）においては、次に示すように、「挿絵の順序を考える」ことによって、話の順序を考えるという、楽しい手だてが取り入れられています。

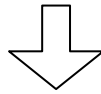
「ニャーゴ」（東京書籍2年上）の学習課題例

*お話の じゅんばんを 考えよう

どんな お話でしたか。絵を 見て、お話の じゅんに ばんごうを つけましょう。

*使うもの・挿絵6枚（六つの場面の挿絵をコピーし、それぞれ1枚ずつのカードにしたもの）

この手だてをさらに工夫し、例えば、教科書の挿絵をコピーして配布し、その「並べ換え」によって話の順序を考えるようにすれば、一層楽しみながら学習することができるでしょう。



挿絵を並べ換えて、話の順序とあらすじを考える

ある先生は、「ニャーゴ」でその手だてを取り入れ、次に示すように、「名前を見て ちょうだい」（東京書籍2年下）にも応用しました。教科書に8枚ある挿絵をコピーして配布し、「並べ換え」によって「お話の順番とあらすじを考える」学習を展開したのです。

「名前を よく見て ちょうだい」（東京書籍2年下）の学習課題例

*お話の 「人ぶつ」について ノートに まとめよう

・えっちゃんは、どんな 「人ぶつ」に、どこで 会ったでしょう。

・それぞれの 「人ぶつ」は、どんな ことを 言ったでしょう。また、どんなようすだったでしょう。

授業の展開例

第1時 ・どんな人物が出てくるか注意しながら、本文を読む。

・えっちゃんが、どんな人物に、どこで出会ったか、確かめる。

第2時 ・本文は伏せ、8枚の挿絵をコピーしたものをを使い、本文を思い出して並べ換える。

・本文（挿絵なし）をプリントにしたものを読み、確かめる。

第3時以降 ・場面ごとに、えっちゃんと人物の様子を詳しく読む。

説明文教材での「並べ換え」は、文章の論理展開の理解に大変有効です

説明的文章の学習課題は、従来より「段落のつながりを考える」「段落や文章の内容を要約する」といったものが代表的です。しかし、児童にとっては、やや退屈なことも少なくないようです。必ずしもすっきりと要約できない段落があったり、子どもの論理では、意味段落にすっきりとは区切れない文章があったりするからです。

そこで、説明的文章の学習にも、「並べ換え」の手だてを取り入れてみてはどうでしょう。知的好奇心をかきたてるはずで、例えば、次の問題を解いてみてください。

「『かむ』こと力」（光村図書4年上）の問題例

次の4つの文は、「『かむ』こと力」の最初の段落の文をばらばらにしたものです。意味が通るように、正しくならべかえてみましょう。

ア いっしょに考えてみましょう。

イ 「よくかんで食べなさい。」と、いつも言われていませんか。

ウ また、よくかむと、どんないいことがあるのでしょうか。

エ かむって、どういうことなのでしょう。

答え（ ）（ ）（ ）（ ） 正解 イ エ ウ ア

いかがでしたか。結構、頭を使うはずで、次の例のように、ヒントを示すのも一案です。

問題を解くためのヒントの例

次の括弧にあてはまる文を、先ほどのア～エから選んで、意味が通るようにしましょう。

みなさんは、お家の方から、（ ）

わたしも、子どものころに、よく母に言われたものです。ところで、（ ）

（ ）

これから詳しく説明しますので、（ ） 正解 イ エ ウ ア

次に、「アップとルーズで伝える」（光村図書4年下）での例を紹介します。

本時（3/6時）の学習課題の提示例 ～「アップとルーズで伝える」（光村図書4年下）～

*ねらい

説明の写真の内容と文章の内容を合わせて段落ごとの内容を読み取る。

接続語「しかし・でも」に着目し、アップとルーズの「伝えられること」と「伝えられないこと」をまとめる。

授業展開例

1 学習のねらいを知ろう

今日は、第 段落と第 段落を中心に学習します。黒板に書いてある、学習のねらいを声に出して読んでみましょう。(略)

それぞれの段落には、一枚ずつ写真が載っていますね。サッカーの写真ですね。アップとルーズの写真です。その写真の説明が、第 段落と第 段落に、それぞれ書かれています。

では、読んでみましょう。写真の、どんなことを説明しているのか、一つめのねらいの学習をします。読み終わったら、どんなことが書いてあったか聞いてみますね。

2 耳で聴いて分かるかな

ここで、教科書を閉じてください。プリントを配ります。教科書の写真だけをコピーしたプリントです。これから、第 段落と第 段落をもう一度読みます。みなさんは、プリントの写真を見ながら、聞いていてください。耳で聞いて内容が理解できたかどうか、読み終わったあとに、問題を出します。

3 正しい順序に並べ換えられるかな

では、問題です。これから、みなさんに二つの封筒を配ります。一つの封筒の中には、第段落の七つの文が小さな短冊になって入っています(短冊を取り出して提示する)。もう一つの封筒には、第 段落の五つの文が入っています。どちらか好きなほうの封筒を選んで開けてください。そして、開けたほうの封筒の中にある短冊の文を、正しい順序に並べ換えてください。

次の学習活動につなぐ説明の例

よくできました。「最初の文」のあとに「これは～(です、しています)」を入れて考えたり、「しかし」「でも」に着目してその前後を考えたりすることで、つながりがはっきりしましたね。

では、その「しかし」、「でも」に着目して、アップとルーズが、それぞれ「伝えられること」と「伝えられないこと」をノートにまとめましょう。

ワンステップアップ

このような「並べ換え」は、「段落のつながりを考える」学習にも効果的です。例えば、「『かむ』ことの力」(光村図書・上)は、全部で九つの段落から構成されており、分量的にも「並べ換え」によって段落のつながりを考えることに適しているといえます。

この教材の場合は、文章の内容が大きく二つに分かれますので、それぞれのまとまりごと(五つと四つ)に学習するとよいでしょう。とりわけ二つめのまとまりには、「まず」「次に」「さらに」「このように」という語が段落のはじめに付いていますので、「段落の並べ換え」に適した教材といえます。

9 出題の形式を様々に工夫しましょう

次に示すのは、平成 16 年度教育課程実施状況調査で通過率が低かった記述式の問題にみられた出題の形式です。このような形式は、教科書の「学習の手引き」や市販テキストでは、あまりみられません。

出題の形式例

- * 筆者の考えを表す言葉を使って、 字程度で書きなさい。
- * まず筆者の考えをまとめて書き、次に自分の体験をもとにして意見を書きなさい。
- * 文中の「 」と「 」の二語を使って、人物の様子を説明しなさい。
- * 文末が ~ から になるように、理由を述べなさい。

調査結果によると、字数・使用語・文末などの指定が組み合わされて出題された場合は、通過率が低くなる傾向がみられました。また、「百字程度で書きなさい」などのように、字数の指定が 3 桁になると、無答率が大きく上がる傾向がみられました。

これらのことから、記述式の問題は、その多様な形式や条件に、「段階的に慣れさせる」ことが大切だと考えられます。したがって、日常の指導においても、ワークシートなどに、これらの形式や条件を意図的に取り入れるなどして、多様な方法や記述量などに、段階的に慣れさせていく工夫が望まれます。

ワンステップアップ

- * 字数指定などの条件設定にあたっては、教師自身が児童の立場になって、事前に書いてみるのが大切です。その字数で書けるかどうか、児童がつかずくとすればどこかなどを十分に吟味しておくことで、授業を円滑に進めることができます。
- * 「この範囲で筆者が述べていることをまとめるとしたら、どの言葉(文)が重要だろうか。」などの問い方で、大切な言葉や文(キーワード、キーセンテンス)を児童に探させます。その際、必ず理由を述べさせます。
- * 「このキーワードを使って、この範囲の文章の要旨をまとめるには、字数はどれくらい必要だろうか。」などの問い方で、「字数」の目安を児童に考えさせ、実際に記述させます。まずは自分で文章量や必要な言葉を推定してみることで、論理的に考える力が身に付くのです。
- * 記述する前に、ペア学習などで話し合い、記述できそうな手応えを得させることが大切です。また、記述したものを板書させて比べたり、互いに読み合ったりすることを通して、論理的に説明する力を身に付けさせるようにします。

平成 18 年度 研究委員会（小学校・国語科）

総 括	栃木県総合教育センター		所 長	五味田謙一
研究委員長	同	研究調査部	部 長	江部 信夫
研究副委員長	同	研究調査部	部長補佐	杉田 知之
委 員	上都賀教育事務所		指導主事	近藤 秀人
同	芳賀教育事務所		指導主事	齋藤 正幸
同	那須教育事務所		指導主事	丑越 薫
同	学校教育課		副 主 幹	中島 聖巳
同	栃木県総合教育センター	研 修 部	指導主事	鹿嶋 実
同	同	研究調査部	部長補佐	杉田 知之
同	同	研究調査部	指導主事	吉澤 正光
事 務 局	栃木県総合教育センター	研究調査部	副 主 幹	矢口 真一
同	同	研究調査部	指導主事	小川 順子

平成 18 年度 栃木の子どもの学力向上を図る学習指導プラン

確かな学力を育むために

【小学校・国語科】

発 行 平成 19 年 1 月

栃木県総合教育センター 研究調査部

〒320-0002 栃木県宇都宮市瓦谷町 1070

TEL 028-665-7204 FAX 028-665-7303

URL <http://www.tochigi-c.ed.jp>

栃木の子どもの
学力向上を図る
学習指導プラン
【小・国語科】



いきいき栃木っ子3あい運動
- 学びあい 喜びあい はげましあおう -